

令和三年 年頭ご挨拶

白神森林組合

代表理事組合長 金野忠徳

新年おめでとうございます。組合員の皆様も、ご家族共々ご健勝にて新たな年をお迎えになられた事とお慶び申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、新型コロナウイルスに始まり、オリンピック・パラリンピックの延期、七年八ヶ月続いた第二次安倍政権の退陣、アメリカ大統領の交代など、ここ数年間分にも匹敵するようなビッグニュースが数多くあった年だったと思われれます。

特に、中国の武漢で発生した「新型コロナウイルス」は、新年に入り燎原の火の如く、瞬く間に全世界に広がり、いまだに終息の見通しがたっておらず、まさに、コロナに始まりコロナで終わった年でありました。

この影響は、我々林業・木材業界にも大きな打撃を与え、特に製材製品の需要が大きく落ち込んでしまいました。

その煽りをまともに受けた我々山元側も、組合員への還元額への影響を考慮した結果、立木伐採の減産に踏み切った事で、組合員の皆様にも、大変なご心配やご迷惑をおかけ致しましたが、保育系の森林整備事業へ注力するなど、業績への影響を最小限にとどめるべく努力しております。さて、本年についてですが、新型コロナウイルスの影響はまだまだ続くものと考えており、前年に引き続き、立木伐採を最小限に抑えるとともに、中国への輸出で調整をするなどしてこの局面を乗り切らなければならぬと考えております。

そのため、令和三年度の事業計画の柱は、新植・下刈・除間伐などの保育事業のほか、昨年より、管内一市三町で本格的に動き始めた「森林環境譲与税」に基づく「森林境界の明確化事業」などを中心として事業計画を立てていくことになるものと考えており、これまでに経験したことのない、厳しい年になるだろうと覚悟しております。

このような状況下でも、職員・技能職員の雇用を守りつつ、組合員の皆様にはご迷惑をおかけしないよう、精一杯頑張りますので、引き続き、ご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます、新年のご挨拶と致します。